

「三宮一極集中」の文化施設集約・廃止計画 市長は住民不在・官僚的トップダウンの押しつけやめよ

見えてきた数千億円の巨大公共事業

中央区役所・勤労会館を立ち退かせ、高さ165mの高層ビルをバスターミナルと一体に建設。また、市役所本庁も建て替え2号館後を高層ビル化。さらに、神戸港西部地区(新港町)には、700戸の富裕層向けツインタワーマンションをつくらせようとしています。合計6棟の新高層ビルにはいずれも商業・にぎわい施設を誘致。さらに、地下鉄と阪急の相互乗り入れまで加わり、莫大な費用がかかる大開発計画ですが、久元市長は事業費「数千億円のオーダー」としつつ、市の負担を全く公表しようとしません。

一方で地域は切り捨て 市民サービス低下

その一方で、市民が愛着をもってきた神戸文化ホール(大倉山)は廃止し、三宮に移転。葺合文化センターや生田文化会館など、地域の文化施設も廃止。体育館機能は行先さえ決まっています。日本共産党議員団は、旧生田区と葺合区を中央区への合区の際にも「旧区役所を区民のスポーツ・文化の拠点に」となった文化施設を、地元住民の意向を全く聞かずに廃止するなど許されないと撤回を求めました。また、神戸港西部地区の700戸のマンション建設予定地は、学校施設の不足が懸念される「要注意地区」と神戸市が指定しているこうべ小学校区です。安倍内閣の成長戦略のまま民間開発を優先し、子どもの教育環境を代償にするなど、とんでもありません。



生田文化会館



神戸文化ホール
三宮バスターミナルに「大ホール」
市役所新2号館に「中」ホール



巨大ツインタワービル



ウォーターフロント
ツインタワー



市役所巨大新庁舎



葺合文化センター



中央区役所・勤労会館
市役所3号館跡地に



市民の意見を神戸市に集中しましょう! 12月27日から2月9日まで

●「えきまち空間」基本計画(案)と新バスターミナル基本計画(案)

提出方法は、日本共産党市議団にお問い合わせいただくか、神戸市ホームページで。

市民の負担は増えている!

福祉・暮らしの予算をもっと手厚くしなければいけません



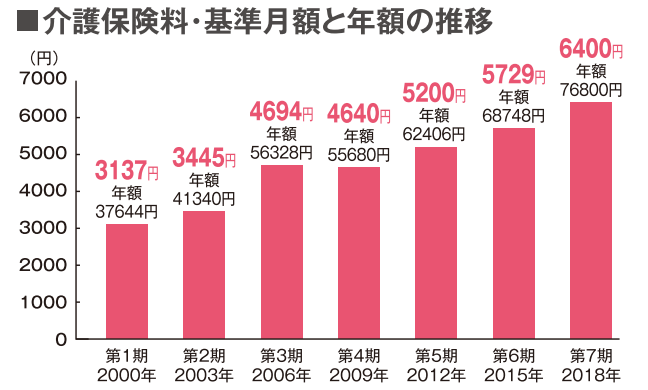
久元市長は本会議で、「全体として、神戸市の単独の社会保障の施策は、厚みを増していると感じている」と答弁しました。しかし、実態はどうでしょうか。国は5年間で医療費や介護サービスの利用料、年金保険料の引き上げや生活保護費の削減などを進めてきています。神戸市は市民の暮らしを守るために力を入れていかなければなりません。

特養待機者数



介護保険料 来年度から、また引き上げ!

神戸市の第7期介護保険事業計画(案)が公表されました。正式には来年の予算市会で決定されます。介護保険料は基準額で、月670円程度引き上げる試算に。2000年に介護保険制度が始まってから上がり続けています。利用料は所得によって2割負担に上がった方、来年から3割負担に上がる方も。国の負担を増やして保険料を引き下げるべきです。



国民健康保険料

これまで市町村が運営してきた国民健康保険は、4月から兵庫県が主体となって運営することになります。いまでも高いのに、これにともなって保険料が引き上がらないようにしていかなければなりません。

赤田議員は、神戸市国民健康保険運営協議会の委員を務めています。神戸市からお金を繰り入れて、払える保険料にするよう、強く求めています。



日本共産党議員団は、定例市会で市民の暮らしと福祉の予算の増額を強く求めています。